

2025年・3月定例会

コメ不足と農業政策について

問 令和の米騒動は、日本の食料自給率を浮き彫りにした。今こそ三豊市の農業政策を変えるチャンスではないか。市の農業が衰退した要因と対策を問う。

答 食料自給率は香川県は34%。水稻の作付状況は10年前と比べ約3割減少。米価は、農家の後継意欲や再生産に影響を与える。今後はデータ駆動型農業による収量の安定、高品化、作業の省力化を進め所得の向上、持続可能な産業を目指す。

問 生産性の向上には圃場整備が不可欠と考える。現状と今後について問う。

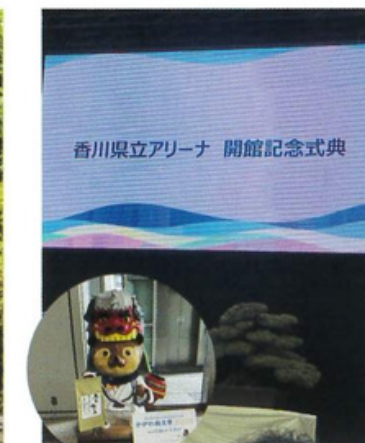
答 市の圃場整備率は51%。合併時は、45%。承認されてからも完了まで相当長かかる。理解頂きたい。



三豊市で暮らす外国人、訪れる外国人について

問 三豊市に住んでいる外国人の人数、訪日外国人の人数を市は把握しているのか。外国人の生活保護受給者はいるのか。運転免許証保持者はいるのか。また子どもの人数、子どもの授業料はどうなっているのか。世界中どこでも多文化共生社会は実現していない。埼玉県川口市等の現状を勉強すべきではないのか。共生は難しい課題である。どう考えるか問う。

答 市内には1,392人。今後も増加傾向。訪日外国人は966人。生活保護受給者は1人。運転免許証取得者は約260人。就園・就学する子どもは34人。授業料は日本人と同じ。多文化共生への取り組みは困難を伴うものかも知れないが、啓発を進め多文化共生社会の実現にむけて取り組みを進める。



国家観が求められる時だ。

国家観とは、日本にはどういう文化があって、どういう歴史があって、どういう国を目指すのか。三豊にはどういう文化があって、どういう歴史があって、どういう地域を目指すのか。そこが明確でないと、政治は単なる利益の調整にしかない。

2024年・12月定例会 三豊市の経済の好循環について

問 市民がお金を使えるようにすることで経済の循環が始まる。30年間給料は変わらないが、消費税は3%から10%へ上がり、介護保険ができ、保険料負担が発生。物価も上がる。ガソリンも上がる、使えるお金もない。経済が回っていない。市の特徴を生かした経済の好循環を問う。

答 子育て支援や行政サービスだけでなく、地域内の稼ぐ力を強化。稼いだお金を地域内で使ってもらう。小規模事業者の生産性を高めることが必要。

問 お金の流れを変えないと経済の活性化、好循環が生まれにくいのではないかと。

答 国も低所得者対策、物価高騰対策などの交付金や臨時交付金を検討中であり、その動向等も注視し、効果的に行う。

問 国の対策にリアリティーがない。

答 市独自の課題に対し政策を提案する。

問 山林の荒廃は、農家、農業者の努力だけでは解決できない。構造的な課題解決が必要と考える。持続可能な農業の好循環として山の「腐葉土」を活用できないか。山の掃除に取り組むことができないか。

答 化学肥料の使用量を抑え、環境に優しい農業につながる。山林の整備などを伴う「腐葉土」の利用について、検討していきたい。

問 農業が壊滅的だ。課題解決に向けてトップの指示、しっかりしていないといけない。市長の考えを問う。

答 農政部で農業振興計画を新たに作成中であるが、盛り込むことを検討したい。



神田地区自主防災会講演会並びに訓練



三豊市防災士会主催「親子防災キャンプ(辻地区)」



11号

[発行] 金子辰男
〒768-0103
香川県三豊市山本町財田西280-10
TEL.090-5912-0119